

「バリアフリー教室」のすすめ

子どもと学ぶ
バリアフリー



このパンフレットは、地域でバリアフリーを内容とした
学習の取組み(バリアフリー教室)を子ども向けに実践する方々
～学校、地方公共団体、NPO等のまちづくり団体などを構成する大人～に
参考にしていただくことを期待して
取組み事例や実施のポイントを紹介するものです。

Contents

「バリアフリー教室」のすすめ 3

「バリアフリー教室」のポイント

知ろう・気づこう 5

理解しよう・確かめよう 7

行動しよう・実践しよう 11

読み聞かせのための絵本の紹介 13

障害の理解やバリアフリーを
解説した図書の紹介 14



こんな場面で活用していただけます



**小・中学校等の
総合的な学習の時間**

先生のカリキュラム作りの
参考になります

**地域の子どもの
育成活動やバリアフリー
まちづくり活動**

PTAや地域団体の活動、
NPOやボランティア団体の
活動の参考になります

**地方公共団体が
実施する
普及啓発活動**

市民向けの普及啓発活動の
参考になります

このほか、まちづくりの場面で、「バリアフリー点検」のためのまち歩きを行う際にも、
行政の担当者・コンサルタント・設計者等に活用いただくことも考えられます。

「バリアフリー教室」のすすめ

今日、急速に進む高齢社会への対応や、障害の有無にかかわらず日常生活や社会生活ができる社会を目指すノーマライゼーションが重要な課題となっています。

このために、鉄道駅、道路、建物などでは、「バリアフリー新法^{*}」などによって、バリアフリー整備が急速に進んできています。

しかし、このような社会への変化をより一層進めるためには、ハード面でのバリアフリーだけでなく、心のバリアを取り除き、多様な人々の存在をお互いに理解しあい、支えあう「心のバリアフリー」が大切です。また、子どものうちから、バリアフリーの心を持って具体的に行動することの重要性を知ることが望まれます。

このような観点から、地域では、学校、地方公共団体、NPO、ボランティア団体、障害者団体、福祉施設など多様な主体が、お互いに連携しながら、子ども達を対象に、同様の取り組みを行っています。また、国土交通省でも、2002年より、各地で「バリアフリー教室」を開催し、主に、地域の学校等と連携して、子ども達に、疑似体験、介助体験、バリアフリー化された施設の体験などをしていただく場を提供してきました。

このパンフレットでは、このような取り組みを参考に、学校でも使用していただけるように配慮して、子ども達に対して、バリアフリーの重要性、あるいは、環境（バリア）がハンデを生むことへの理解を促すためにバリアフリー教室を実施する際のポイントを示すとともに、取り組み方の概要・効果と具体例を紹介しています。

様々な方々に、このパンフレットを参考にいただき、バリアフリー教室を通した「心のバリアフリー」の普及が進むことを期待しています。

※高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

バリアフリーとは

高齢者・障害者等が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること。
物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方。

「バリアフリー教室」のポイント

高齢者や障害のある人などと一緒に取り組みます。

高齢者や障害のある人に対する誤解がなくなり、「障害のある人は特別」とか「かわいそう」といった意識が変わり、バリアフリーへの理解が深まります。

具体的な行動に結びつくよう、実際にやってみます。

適切で具体的な行動につながる効果があります。

「環境がハンデを生む」ことに気づきます。

高齢者や障害のある人が「大変」と思う様々なバリアが、日常生活や社会活動をしづらくしており、一人ひとりの能力がハンデの原因ではないことに気づきます。



次のページからはバリアフリー教室の方法について、7種類の取組みを、具体例をまじえて紹介しています。また、これを大きく3つに分類しています。

知ろう・ 気づこう

- まちにはどういう人が暮らしているのかを知る
- バリアとは何かを知り、気づく

I 読みきかせ (P5)

II 調べ学習 (P5)

III お話会 (P5)

理解しよう・ 確かめよう

- 障害のある人の暮らし方やまちの歩き方の体験により、バリアを実感し、理解を深める
- 障害のある人への介助方法を学び、必要な手助けを体験的に理解する
- 障害のある人と共にまちを歩いて、バリアやバリアフリーを確かめる

IV 擬似体験 (P7)

V 介助体験 (P7)

VI まち歩き (P7)

行動しよう・ 実践しよう

- バリアフリーの“もの”を実際に考えて作り、使って実感し、検証する

VII ものづくり (P11)

国土交通省のホームページに進め方のポイントを掲載しました。興味がある、やってみようという方々は、こちらをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/others/others.html>

I 絵本の読みきかせ

1 概要

障害のある人の暮らしを知ってもらうために、絵本に描かれた物語を通して障害の理解とバリアフリーを伝えるのがねらいです。

絵本を子ども達に見せながら朗読します。子ども達が離れて座っても、絵がはっきり鑑賞できる絵本を選びます。

なお、絵が小さいものであっても、家庭での

読みきかせなどの場面で役立つ絵本や童話もたくさんあります。

2 特徴・効果

- 絵本から学ぶ方法のため、物語に描かれた障害のある人の暮らし方などが自然に伝わります。

読みきかせのための絵本の紹介 ⇒P13

II 調べ学習

1 概要

高齢社会、障害の理解、バリアフリーなどについて幅広く理解する方法として、小中学生向けの専門図書を使った学習がねらいです。多様なテーマについてシリーズで解説した図書は、調べ学習に適しています。

2 特徴・効果

- バリアフリーについて、子ども達が深い気づきを得るためには、主体的・積極的に学ぶことができる学習環境が必要です。その際、正確な知識が得られる図書などの活用が効果的です。
- 障害のある人の話を聞いたり、疑似体験等を効果的に進めるうえでも、事前に調べ学習により正確な知識を得ておくことが重要です。
- 子ども達が自分で選んだテーマに沿って深く学習することができます。

障害の理解やバリアフリーを解説した図書の紹介 ⇒P14

III 障害のある人によるお話会

1 概要

障害のある人から直接お話を聞くことにより、子ども達が障害について、具体的かつ正確に理解することがねらいです。

障害のある人が、自分の暮らし方や仕事のしかた、まちの歩き方などについて話をします。子どもに分かりやすいように日常生活のを中心に、また、まちの整備が整えば普通に暮らせること、すなわち、様々なバリアが日常生活や社会活動をしづらくしていることを話してもらう

ことが重要です。

複数の人に話してもらうことや、実演を交えて子ども達が体験をすることも効果的です。

2 特徴・効果

直接障害のある人と対話することで、障害に関して深い気づきが得られたり、誤解が解けたり、自分と同じように暮らしていることを“知る”ことができ、理解を深められます。

実施例

名 称 千歳烏山駅前バリアフリー体験隊 スタンプラリー (2007.11.17)

実施主体 東京都世田谷区烏山総合支所、協力: 烏山ネット・わあ〜く・ショップ、(有)プレイス

1 実施概要

世田谷区は、小学生を対象にして、「視覚に障害のある人」「聴覚に障害のある人」「車いすを使用している人」についての理解を深め、多様な人の生活のしやすさを考えるきっかけ

を作る目的で、障害のある人から、日常生活の話を聞くイベントを行いました。イベントではお話会とそれを実感できるように、簡単な体験もしました。

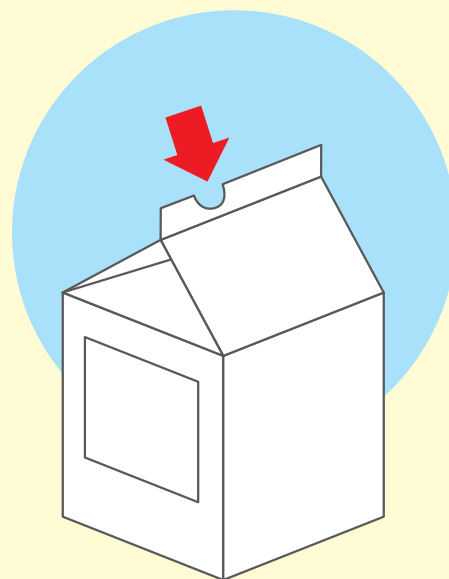
2 学習内容(視覚に障害のある人のお話会の例)

●視覚に障害のある人から話を聞き、お話をした人は、「視覚に障害があっても工夫して生活している」「まちの中で視覚に障害のある人に出会ったときには、まず声をかけること、どのような手助けを望んでいるのか聞くこと、回りの様子を説明することなどが大切である」と伝えました。

●参加者はアイマスクをつけたままで話を伺いました。また、毎日普通にしていることについては、実際に触ったりして体験を交えてお話を伺いました。例えば、牛乳パックには触って見分けられるように、パックの上の一部に、半円形の切り欠きのついているものがあり、みんな触って体験しました。



アイマスクをして物を見分ける体験もしました



牛乳パックの上の方に切り欠きのある事例。触ってジュースのパックと見分けられます。

IV 車いす使用や視覚障害等の擬似体験

1 概要

障害のある人が「大変」と思うのは、施設のつくり方やまちの環境が、その人の心身の状態と不整合を起こしバリアとなっているためです。擬似体験により障害のある人の暮らしの中でのバリアを実感し、この不整合に気づくのがねらいです。

例えば、車いすでまちに出て、路面の状況、傾斜の負担などの体験をしたり、屋内外で参加者がアイマスクをつけて、視覚障害のある人にとって

のバリアを体験します。

なお、車いすを使っている人などの介助体験とセットで実施することもあります。

2 特徴・効果

- 自分とは異なる感覚や暮らしの方法があることを、障害のある人の説明と擬似体験により、実感して理解することができます。
- 障害のある人の暮らしの中で、何がバリアか知ることができます。

実施例 ⇒P8

V 車いす使用者や視覚障害者の介助体験

1 概要

車いす使用者の介助、視覚障害者の誘導(ガイドヘルプ)、高齢者への手助けなどを体験し方法を習います。一般的には擬似体験とセットで実施します。

*「交通バリアフリー介助マニュアル」(交通エコロジー・モビリティ財団 平成12年)が参考になります。

2 特徴・効果

- 介助を受ける側の高齢者や障害のある人にとって、実際に求めている介助や手助けとは何か、そのときに配慮しなければならないことは何かについて、擬似体験とともに介助体験をする事で適切な理解が身につきます。

実施例 ⇒P9

VI まち歩き(バリアフリー・チェック)

1 概要

日常の暮らし方やまちの歩き方について、障害のある人がどのようにしているのか、実際に障害のある人と一緒にまちを歩いて、バリアとバリアフリーを体験しながら理解を深め、バリアフリーのまちづくりについて考えることが趣旨です。

障害のある人と一緒に、バリアやバリアフリーをチェックしたり、考えながら近くのまちを歩いたり、施設の利用体験をします。

分かったバリアやバリアフリーを大きな地図に書き込んでまとめたり、発表したり、他のグループ

の考えを聞いたりすることで、多様な考え方やニーズがあることを学習できます。

2 特徴・効果

- 実際にまちを歩くため、自分のまちのバリアやバリアフリーを具体的に理解することができます。
- 障害のある人の話を聞いたり対話することで、求めているバリアフリーが理解でき、また、誤解を解くことも期待できます。
- 一人ひとりの能力がハンデの原因ではなく、環境(バリア)がハンデを生むことに気づくことが期待できます。

実施例 ⇒P10

実施例

名 称 千歳烏山駅前バリアフリー体験隊 スタンプラリー (2007.11.17)

実施主体 東京都世田谷区烏山総合支所、協力: 烏山ネット・わぁ〜く・ショップ、(有)プレイス

1 実施概要

- 世田谷区は、小学生を対象にして、「視覚に障害のある人」「聴覚に障害のある人」「車いすを使用している人」についての理解を深め、多様な人の生活しやすさを考えるきっかけを作ろうと思い、烏山区民センターで、障害のある人の指導のもと、擬似体験のイベントを行いました。
- 小学生が興味を持って体験できるように、区で準備した7種類の擬似体験の中から4種類

の体験に参加して、その度にスタンプをもらって、4つのスタンプを集めると記念品がもらえるスタンプラリーの方法で行いました。

- 商店街に隣接する区民センターとその前の広場を利用して開催したので、近隣の商店街に協力いただくことができ、また、一般の人も擬似体験に参加しました。

2 学習内容(車いす、手話体験の例)

(1) 車いすを使った擬似体験

- 主催者が車いすの基本的な操作について説明し、小学生が車いすを使う擬似体験をしました。
- 広場に設置した体験コースで、車いすに



狭い通路の
体験コースです



停めた自転車のある
コースです

乗ったり、介助を体験し、路上に停めた自転車の危険性や、段差が移動の支障になることを体験して理解しました。

こんな感想がありました ……………

「自分の足で歩いている人には広いとされているところも、車いすの人にとっては狭いと思うところもありました。これからは、自転車はちゃんとしたところに置こうと思います。」

(2) 手話で振付けて歌う体験

- 聴覚に障害のある人が、自分たちのコミュニケーションのしかたについて説明をしました。
- コミュニケーション手段としての手話に興

味を持ってもらうとともに、挨拶などの基礎的な手話ができるように練習をし、その後に手話で振付けた歌を習って歌いました。



手話で歌をうたいました

こんな感想がありました ……………

「本当に耳の聞こえない人もいらっちゃって、朝どうやって起きるのか?手話以外にどうやって言葉を伝えるのか?などのことがわかってびっくりしました。」

実施例

名 称 バリアフリー教室(2007.6)

実施主体

北陸信越運輸局 共催:新潟県上越市 後援:社会福祉法人上越市社会福祉協議会
 協力:上越市立清里中学校(3年生33名)、三郷小学校(6年生13名)、
 高士小学校(4年生12名、6年生9名)、北諏訪小学校(6年生15名)、
 佐渡汽船(株)、頸城自動車(株)

① 実施概要

●国土交通省では、バリアフリーへの理解を深めるとともに、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指し、2002年より「バリアフリー教室」と題して、高齢者や

障害のある人への擬似体験や介助や手助けの体験などを実施してきました。ここでは、北陸信越運輸局の例を紹介します。

② 学習内容(車いす使用者介助体験、視覚障害者の誘導体験、高齢者擬似体験)

●旅客船ターミナルやノンステップバスを使用し、これらの施設・設備などにおいて、擬似体験と介助体験をし、意見交換を行いました。

となり、フェリーターミナル内やノンステップバスを使用して各種体験を行いました。また、フェリー内で、船長さんよりフェリーのバリアフリー対応についてのお話を伺いました。

●まず、盲導犬ユーザーの方より日常生活についてのお話をいただき、その後2人1組



アイマスクをして歩くところを介助する体験をしました



ノンステップバスへの乗車の介助を体験しました

こんな感想がありました

「他の人の助けがとても大切でありがたいことがわかりました。この体験で学んだことは小さな事でも良いので活用していきたいです。」

実施例

名 称	まち歩きワークショップ／地域で取り組むバリアフリーのまちづくり(2004～2007)
-----	--

実施主体	大阪市北区(区民企画担当) 協力:大阪大学大学院工学研究科、八千代エンジニアリング(株)
------	---

1 実施概要

大阪市北区では、まちのバリアフリーを進めるきっかけづくりとして、小学校の総合的な学習の時間の取組みと連携して「まち歩きワークショップ」を開催しました。

企画や運営には小学校の先生、PTA、地域住民、障害のある人、大学の先生、区の職員、

コンサルタントが参加しました。

また、車いす使用者、視覚に障害のある人、聴覚に障害のある人に協力いただきました。

注:ワークショップ／何らかの共同作業を行いながら、グループで検討や討議を行う方法です。グループ全員の意見を尊重し総合化していく特徴があります。

2 学習内容

(1) 事前の学習など

- 「まち歩き」の前に、障害のある人から話を聞いたり、校内で擬似体験をするなどの交流会を行い、障害について理解を深めました。
- 参加いただくPTAや地域の方々に事前説明会を行い、目的や内容を理解いただきました。



校内で、視覚に障害のある人の手引きを行って校舎の様子を確認しました



一緒に給食を食べる体験をしました

(2) まち歩き

- グループに分かれて、子ども、地域住民、障害のある人が一緒に歩き、道路や商店街などについて、何に不便を感じるのか、何が利用できなかったりするのか、どのようなところがバリアフリーとなっているのか、擬似体験もしながらチェックしました。



まち歩きの中で、視覚に障害のある人の手引きを行いました

(3) まち歩きのまとめ(まちの「やさしいところ・やさしくないところ」マップ作り)

- まち歩きのまとめとして、道路や商店街では「放置自転車」「溝がある」「坂道や階段がある」などのバリアを報告しました。
- 大学の先生から、まちで気づいたこと、「やさしくないところ」と「やさしい工夫」、放置自転車の課題など、調べた内容について講評していただきました。
- また、「『やさしくないところ』はどのような工夫をしたらいいのか?」「じゃまな自転車があっ

たらどうしよう?」など、これからも考えるべきテーマを提案していただきました。



チェックしたことをマップに書き込んでまとめ作業を行いました

VII バリアフリーのものづくり

1 概要

身近で使うものを対象に、バリアフリーのものづくりを、提案から、実際の製作まで行うものです。また、使ってみてバリアフリーを実感できる学習です。ものづくりの過程で「知る・気づく」「理解する・確かめる」ことが必要となりますので、バリアフリーをより広く、深く理解できることも期待できます。

作るものは、誰もが使う身近なもので、バリアフリーを実感できるものを取り上げるのが効果

的です。また、障害のある人の参加も重要です。

2 特徴・効果

- できたものが本当にバリアフリーかどうかの検証も伴いますので、バリアフリー理解が深まる学習効果もあります。
- ものができあがりますので、バリアフリーを実感できる楽しいイベント型の取り組みです。

実施例

名 称 子どもたちと地域社会の協働によるユニバーサルデザイン理解促進事業(2005)

実施主体 岩手県北上地方振興局、協力:NPO法人アクセシブル北上、(株)アークポイント

1 実施概要

●ユニバーサルデザインについて学んだことを具体的に身につけるために、総合的な学習の時間を活用して実践的な活動を行いました。テーマはユニバーサルデザインのベンチ「きたかみUDマイベンチ」づくりにしました。

●この取り組みは、製作に職業訓練校や地域の企業が関わることで、子どものみならず大人も、ユニバーサルデザインの実践について学ぶ機会となりました。

2 学習内容

(1) 取組みの全体構成

NPO法人が主体となって運営しました。ベンチのユニバーサルデザインを考え、設置場所をまち歩きで検討し、デザイン提案をして模型

を作成し、優れた提案を選定するところまで取り組みました。ベンチの製作は、主に地域の企業等により引き続き取り組まれ実現しました。

(2) 取組みの手順

①ベンチのユニバーサルデザインの検討



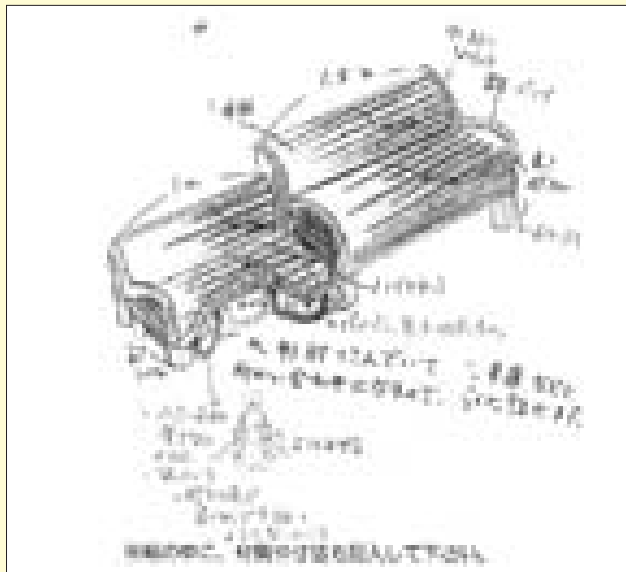
夏休みの宿題で、使いやすいと思うベンチを調査しました

②まち歩きで設置場所を検討



ベンチの設置場所を検討するまち歩き。場所の確認やヒアリングを行っています

③ユニバーサルデザインのベンチの提案と模型づくり



全員がユニバーサルデザインのベンチを提案して、班毎に代表作を決めて、模型を作成しました



模型の製作では黒沢尻工業高校の生徒さんの協力を得ました

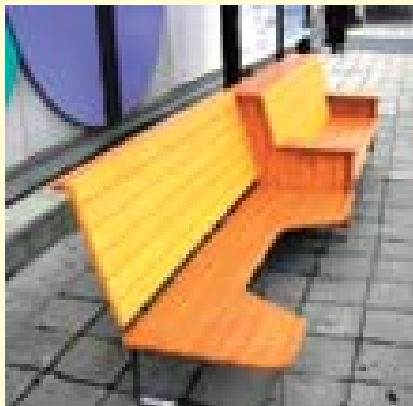


放課後も使い、NPOの方々の協力を得て、模型を完成させました

④市民報告のシンポジウムで優秀賞を決定し、地元企業の協力で製作

このベンチのユニバーサルデザインの工夫は3点あります。まずベンチの高さを2種類にしたこと、2点目は子ども用は真ん中を凹

ませて向かい合えるようにしたこと、3点目は背もたれを丸くして寄りかかりやすくしたことです。



完成した「きたかみUDマイベンチ」



こんな感想がありました

● 僕たちはマイベンチを作ってみて、今までベンチに普通に座っていたけど、作る人はたくさんの気持ちを込めていたのだなと思いました。

● ベンチの模型を作るのは大変だと思ったけど、やってみると完成するのが楽しみになりました。出来あがって、みんなに気持ちいいと実感してもらえればうれしいです。

読みきかせのための絵本の紹介



「どんなかんじかなあ」

中山千夏・文／和田誠・絵／自由国民社

- 車いすを使用している男の子が、視覚に障害のある友達の見え方、聴覚に障害のある友達の聞こえ方、親を亡くした友達の心のことをイメージ豊かに思い描きます。
- そして、動けないことで、いろんなことを考えることができることに気づきます。



「さっちゃんのまほうの手」

田端精一・野辺明子・志沢小夜子・先天性四肢障害児父母の会共同制作／偕成社

- 左手の指のない、幼稚園に通う女の子の話です。幼稚園でままごと遊びのお母さん役がしたいのですが、左手のことで友達が反対します。悲しんで家に帰りますが、お母さんから「これがさちこの大事な手」、お父さんから「力がわく魔法の手」と告げられます。
- 次の日友だちや先生が家に来て幼稚園に誘われ、さっちゃんは、明日は幼稚園に行って皆と遊ぶんだと思いつつ眠りにつきます。



「わたしの足は車いす」

フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク・作／フェレーナ・バルハウス・絵
ささきたづこ・訳／(株)あかね書房

- 車いすを使用している小学生の女の子が、初めて1人でリンゴの買物のお使いに行く話です。
- まちのつくり方や、障害のある人に出会ったときの私たちの気持ちや態度について、考える機会になる絵本です。

その他の絵本の紹介

「障がいて、なあに？」

(オードリー・キング・絵・文／久野研二・訳／明石書店／2004)

「はじめてみんなとかえった日 —はるなちゃんと1年3組の1年間—

(いなぎようこ・文／ふじたひおこ・絵／偕成社／2000)

「わたしいややねん」

(吉村敬子・作／松下香住・絵／偕成社／1980)

「ゆめのおはなしきいてエなあ」

(吉村敬子・文／佐々木麻こ・絵／偕成社／1980)

「ペカンの木のぼったよ」

(青木道代・作／浜田桂子・絵／福音館書店／2004)

「見えなくてもだいじょうぶ？」

(フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク・文
フェレーナ・バルハウス・絵／ささきたづこ・訳
あかね書房／2005)

「はじめてであう手話／たつくといっしょに」(全3巻)

(全日本ろうあ連盟・監修
「はじめてであう手話」編集委員会・編／汐文社／1994)

*主に身体障害をテーマとした一般に販売されている絵本を取り上げています

障害の理解やバリアフリーを解説した図書の紹介

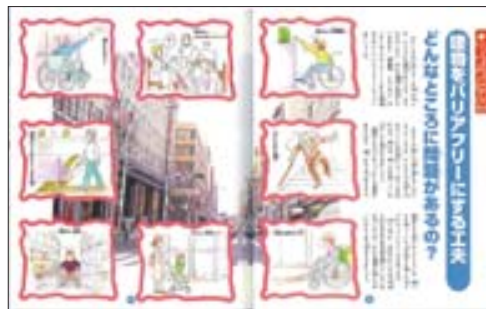
1 『『バリアフリー』って、なんだろう?』(全6巻)

(財) 共用品推進機構・監修 / (株) 学習研究社

●本書は、高齢者や体の不自由な人も含めて様々な人が感じている「困ったこと」や「不便なこと」を取り除くというバリアフリーの考え方を紹介するとともに、どうしたらいろいろな人にとってのバリアをなくし、バリアフリーの社会にしていけるのかについて、社会の多様な場面を取り上げて解説しています。

●第1巻では、目や耳の不自由な人、車いすを

使用している人、妊婦・高齢者・小さな子ども・外国人などが、街の中や家の中で困っていることを紹介し、バリアを理解できる内容としています。第2～4巻では道路や交通機関、建物、日用品のバリアフリーを、第5巻では心のバリアを取り除く視点を取り上げています。また、第6巻では、「みんなでつくるバリアフリー」を提案しながら、疑似体験や介助方法も紹介しています。



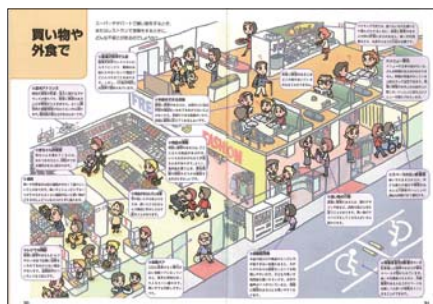
2 「ユニバーサルデザインみんなの暮らしを便利に」

東京大学先端科学技術研究センター バリアフリープロジェクト・監修 / (株) あかね書房

●本書は「1 ユニバーサルデザインってなに?」「2 暮らしの中のユニバーサルデザイン」「3 まちのユニバーサルデザイン」の全3巻で構成されています。

●本書の構成は、まず日常の生活行為を取り上

げて、その中での「不便さ」と「くふう」を解説し、主にハード面の整備や機器がどのような人に、どのように役立っているかを、事例と共に紹介しています。



その他の図書の紹介

『『障害』について考えよう』(全5巻)

(増田美加・嶋田泰子・文 / ポプラ社 / 1995)

『障害を知る本』(全11巻)

(茂木俊彦監修・編 / 稲沢潤子・文 / オノビン・絵 / 大月書店)

『ふれあうことから始めよう

高齢社会がわかる本』(全6巻)

(一番ヶ瀬康子・監修 / くもん出版 / 2001)

ガイドの作成にあたっては、「有識者検討会」を設置し、学識者、小中学校の現場で実際にバリアフリー学習に携わっている先生、障害のある人にご意見をいただきました。

ありがとうございました。

中野 泰志 慶應義塾大学 経済学部教授
佐藤 克志 日本女子大学 家政学部 住居学科 准教授
三戸 学 秋田県 由利本荘市立本荘東中学校教諭
宮崎 淑子 東京都 町田市立つくし野小学校教諭

(敬称略)

<ご覧になった方へ>

「もっとこういう情報が欲しい」「もっとこういう冊子に」などのご要望・ご意見がありましたらご連絡下さい。スパイラルアップ(継続的改善)の観点から、適時この冊子を見直すなど、皆様の声でよりよいものにしていきたいと考えております。

発行 国土交通省 総合政策局 安心生活政策課
〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3 TEL:03-5253-8111(代表)
編集協力 (株)ケー・シー・エス (株)アークポイント

2009年3月発行

この冊子はダウンロードフリーです。関連情報も掲載しています。

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html>